

【家訓】 手伝いは、
一日一個以上する

城 原
(ぐすくばら)

瀬戸内町立俵中学校
No.4 平成25年7月号

故きを温ねて新しきを知る

校長 神田 哲郎

第10代校長田中和夫先生が、平成2年7月9日に始めた板付け舟による大島海峡横断が今年で24年目になります。田中校長は特色ある学校づくりを推進する中で、海と山に囲まれた俵中学校から対岸の須手集落を見ながら、昔の人たちの暮らしはどうだったのだろうと思いをはせました。そして、昔は板付け舟で薪や農産物を古仁屋へ運び、帰りに日用品、食料品などを運んでいたらしいことを知り、「昔の人々の生活をしのび、同時にチームワークや気力・体力を養う。」ことをねらいとして初めて実施した特色ある行事であり、今後も続けていきたい素晴らしい伝統行事です。

特に、今年は奄美群島日本復帰60周年の年でもあり、板付け舟による大島海峡横断をとおして、板付け舟を主な交通手段としていた当時の生活の様子や風・潮流などを考慮して航路を選んでいた先人の知恵、復帰に対する熱い想いを知るよい機会だったと思います。

また、日本復帰と同時に国の町村合併促進の時期が重なり、昭和31年9月1日に古仁屋町と西方村、鎮西村、実久村の一町三村が合併して、瀬戸内町が誕生した訳ですが、合併時26,500人いた人口も今年の5月1日現在9,395人となりました。少子高齢化や過疎化の流れの中で、ますます人口は減っていくと予想されます。



大きなかけ声で俵をめざす生徒たち

今こそ、今後の瀬戸内町の活性化、俵中学校

及び加計呂麻地区の各学校の存続を考えることはとても重要なことです。

イギリスの元首相ウィンストン・チャーチルは「第一級の政治家は第一級の歴史家の資格を要求される。さらに遠くの過去を見渡せる者は、それだけ遠くの未来を見渡せる。」と言っています。我々は政治家ではないですが、まさしく温故知新のごとく過去を学び、未来を切り開くことが大切だと思います。

総合的な学習の時間等を利用して、大島海峡（瀬戸内水道）を挟む現在の瀬戸内町をはじめ、旧実久村、俵中学校校区の特色や生活の様子、先人の知恵等をしっかり学習していきたいと思いますので、ご協力をお願いします。

板付け舟による大島海峡横断へのご協力ありがとうございました

6月30日、日曜日に奄美群島日本復帰記念「板付け舟による大島海峡横断」を実施しました。心配された天候や波も生徒・職員や保護者、地域住民の熱い思いにより、最高の状況で古仁屋の須手港から俵海岸までの約7.4キロを無事に漕ぎきることができました。参加者一同、達成感と昔の生活の厳しさを体感することができました。

多忙な中、ご協力くださいましてありがとうございました。



本物に触れて当時の暮らしを考えてみました！

霧島市の上野原遺跡にある県立埋蔵文化財センターから出土品を借用して展示と社会科の授業を行いました。展示は7月18日まで行います。ぜひ学校にお立ち寄り、実物を手にとってご覧ください。

【生徒の感想】昔の人は、いろいろなものを使って生活できるなんてすごいと思った(1年)。身近にある石、土など環境に優しいものを使っていることに気づいた(2年)。資料館や本などで見たことあったけど実際にさわってみて今とは全然違う生活をしてたんだなと思いました(3年)。



A:縄文土器, B:石器, C:土器の施文具
D:甕(かめ)と壺(つぼ)の比較



今年も青木先生にご指導いただきました

6月18日の美術の授業で水彩画の学習を行いました。嘉入在住画家の青木薫さんのご指導で水彩絵の具をつかって風景画に色を付けていきました。仕上がった作品は、町の図画作品審査会に出品しました。今後は教わった手法を夏休みの課題作品制作に生かしてくれるものと期待しています。

おもな7月行事

▼いよいよ長い夏休みが始まります。家庭で過ごす時間が多いので、ぜひ計画や規則を親子で作って欲しいと思います。▼特に3年生は、1・2年次に学習した内容の復習を行い、高校受験に備える必要があります。▼よく言われていますが「夏を制する者は、受験を制する。」を合い言葉にしてしっかり復習に取り組み、どうか有意義な夏休みになることを期待してます。

7月後半		
13	土	県体大島地区大会(～14日)
15	月	海の日
17	水	不審者対応教室、かけはし号
19	金	終業式・大掃除
21	日	マリンフェスタ in 加計呂麻
23	火	町富士山登山事業
31	水	かけはし号
8月上旬		
1	木	出校日
4	日	デイキャンプ in 須子茂離